

# 平成22年度 中間評価報告

福島県立双葉高等学校

## 1 中間評価の概要

### (1) 実施方法等

| 学校経営・運営<br>ビジョンにおける<br>重点実践目標No. | 重点実践目標に対応する具体的目標の実践・評価部署 |           |           |         |         |         |         |         |         |
|----------------------------------|--------------------------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|                                  | 教務<br>部                  | 生徒<br>指導部 | 進路<br>指導部 | 保健<br>部 | 図書<br>部 | 1<br>学年 | 2<br>学年 | 3<br>学年 | その<br>他 |
| 1                                |                          |           |           |         |         |         |         |         |         |
| 2                                |                          |           |           |         |         |         |         |         |         |
| 3                                |                          |           |           |         |         |         |         |         |         |
| 4                                |                          |           |           |         |         |         |         |         |         |

重点実践目標および具体的目標については、別紙「学校経営・運営ビジョン」参照

### (2) アンケート及び回答数

| 対 象          | 中間評価のためのアンケート |        |       |       |       |
|--------------|---------------|--------|-------|-------|-------|
|              | 実施時期          |        | 対 象 数 | 回 答 数 | 割 合   |
| 教 職 員        | 7/15実施        | 7/20提出 | 37    | 35    | 94.6% |
| 教職員<br>以外    | 7/14実施        | 7/20提出 | 469   | 443   | 94.5% |
| 生 徒<br>保 護 者 | 7/14実施        | 7/20提出 | 469   | 305   | 65.0% |

### (3) 評価基準について

| 評価   | A     | B       | C           | D        |
|------|-------|---------|-------------|----------|
| 評価基準 | 達成できた | やや達成できた | あまり達成できなかった | 達成できなかった |

## 2 中間評価のまとめ

### (1) 中間評価実施の目的、意図

平成18年度に「双高ビジョン21世紀プロジェクト委員会」を立ち上げ、地域の中学校の生徒や保護者等にアンケートを実施し、平成19年度にその結果を分析して提言されたことについて検討した。そのことを踏まえながら、年度当初に「学校経営・運営ビジョン」を策定し、PTA総会等で保護者の皆様に説明するとともに、重点実践目標の達成に向けて教職員の共通理解のもとに取り組んできた。

教職員・生徒・保護者によるアンケート等により、重点実践目標がどの程度達成されているか、課題や改善点は何かを把握し、年度後半の教育活動に反映させるために中間評価を実施した。

### (2) アンケート結果の分析（別紙「アンケート（中間）集計結果」参照）

「そう思う」と「だいたいそう思う」割合の合計が高いアンケート項目

( )はアンケート項目の番号

|     | 教 職 員              | 生 徒       | 保 護 者      |
|-----|--------------------|-----------|------------|
| 1 位 | (1, 4, 5, 8) 97.3% | (4) 89.8% | (4) 93.4%  |
| 2 位 |                    | (8) 89.4% | (1) 91.1%  |
| 3 位 |                    | (1) 88.8% | (10) 90.1% |

教職員、生徒、保護者によるアンケート結果において、評価が高かった内容は次のとおりであり、今後も継続して取り組んでいきたい。

進路希望実現へ向けた積極的な支援

進路希望に対応した教育課程

健康に関する自己管理・充実した学校生活

「そう思わない」と「あまりそう思わない」割合の合計が高いアンケート項目

( )はアンケート項目の番号

|     | 教 職 員        | 生 徒       | 保 護 者     |
|-----|--------------|-----------|-----------|
| 1 位 | (6, 9) 24.3% | (9) 56.3% | (9) 51.2% |
| 2 位 |              | (7) 41.4% | (7) 49.8% |
| 3 位 | (7) 18.9%    | (6) 32.4% | (6) 27.2% |

教職員、生徒、保護者からのアンケート結果から、次の3点についてこれまで以上に指導していく必要があると判断される。

読書に親しむ習慣や図書館の利用  
 家庭学習の習慣化（週20時間以上）  
 開かれた学校づくり

(3) 達成状況、及び後半期へ向けての改善方策等  
 礼儀を重んじた自律的な生活態度の育成【重点実践目標No.1】

| 評 価        | A | B | C | D |
|------------|---|---|---|---|
| 評価部署による評価数 |   | 4 | 1 |   |

服装が乱れている生徒やあいさつができない生徒、携帯電話の校内での使用規程を守れない生徒が見られるので徹底させる必要がある。また、登下校の際の自転車乗車や歩行の交通ルールやマナーについて集会時に確認させた。1年生は8月末での皆勤者数が約78%おり今後励ましていきたい。2年生は1年次に比べ、生活に落ち着きが見られるようになってきた。3年生は、朝の学年合同SHRを毎週火曜日に実施し、全体指導により生活指導の徹底を図った。

教員数が減少しているため、平常の清掃割当ができないところもあるため、長期休業中に部活動生徒の協力を得て校舎内外のトイレ等の清掃を徹底していきたい。

学力の向上と進路指導の充実【重点実践目標No.2】

| 評 価        | A | B | C | D |
|------------|---|---|---|---|
| 評価部署による評価数 | 2 | 5 | 4 | 1 |

自習時間数が前年度比39%減少して授業時数が確保され、朝の小テストや週末課題等で基礎を確認するとともに、今年度から全学年が平常課外を実施しており、その出席状況も良く学習意欲は向上している。1・2年生は学習や生活の記録と週末課題を提出させて家庭学習の習慣化を図っているが、考査期間中は20時間を超えるものの、それ以外は目標にはほど遠い。3年生は時期的に現実的になりそれぞれ進路実現に向けがんばっている。

進路だよりを発行して全校生徒・保護者への進路情報の伝達に努めるとともに、1学期には授業を短縮して時間を確保し個別面談を充実させ、夏休みには三者面談を実施した。1年生はコース選択の最終段階に向け、後悔することのないよう面談を実施しながら目標を決定させたい。2年生は模試結果に基づいた学習指導や進路目標の確認・方向付けを行った。3年生は進路先決定に向けて個別面談を実施するとともに、各教科で学力の分析を行い、指導の工夫・改善に役立てた。今後、全体での学力分析会を実施して、国公立大や私大受験に向けた学力向上対策を検討する。

新学習指導要領については、2学期より研究を進めていく予定である。

豊かな人間性の育成【重点実践目標No.3】

| 評 価        | A | B | C | D |
|------------|---|---|---|---|
| 評価部署による評価数 | 1 | 5 | 1 |   |

小文化祭やHR球技大会等を通して、級友との親交を深め、協力関係が築かれた。図書館の広報紙を4回発行するとともに、読書記録の活用を通して「朝の読書」の定着化を推進しており、9月上旬までの貸出冊数は1,293冊（昨年度1,023冊）。一人当たりの貸出冊数は2.8冊（昨年度2.0冊）。

昨年度に比較して、虫歯のある生徒が多く、治療済みの報告数が少ない。今後、担任等と連携を図り継続して指導する。スクールカウンセラーのご指導により、生徒の精神的なケアが充実された。5月に被害調査を実施した結果、「いじめ」に関わる問題はみられなかったが、引き続き、HR活動を通して指導していく。

開かれた学校づくりの推進【重点実践目標No.4】

| 評 価        | A | B | C | D |
|------------|---|---|---|---|
| 評価部署による評価数 |   | 1 |   |   |

今年度、情報発信が組織的・継続的に行われるように改善するためホームページ委員会を改編して学校公開推進委員会とし、ホームページの更新や学校だよりの発行に加えて、新たにマスコミへの取材依頼や部活動の活躍の駅前掲示などを実施して情報発信に努めた。